



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 9月号

令和元年 8月30日

横浜市立旭小学校

「質の高い教育を生むこと」と「教職員の働き方改革」

学校長 高桑 透

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。子どもたちは夏休み中の生活リズムから学校生活のリズムに慣れるのに少し時間がかかるかもしれません。登校初日の朝は、元気のよい挨拶がなかなか返ってこなかったのが心配になりました。数日たった今は、少しずつ元気な挨拶が増えてきました。キラキラとした元気いっばいの明るい表情の子どもたちに早く戻ってくると嬉しいです。

今年の夏を振り返ってみると、昨年ほどではなくても、やはり猛暑は続き、熱中症対策が必要不可欠となりました。子どもたちの健康を守るために、各学校でも暑さ指数(WBGT)を参考にしながら、学習活動について細心の注意を払っています。本校でも4台の暑さ指数計を使って、校舎内外の状況が子どもたちの学習環境としてふさわしいかどうかをチェックしています。さらに、水泳学習の環境を整えようとプールサイドにミストを設置しました。水泳学習時や区水泳大会時にも使用しました。それでも、区水泳大会当日は、暑さ指数がかなり高くなったため、途中から待機・応援の場所をプールサイドからエアコンの効いた教室に変更するなどの対応もしました。これから運動会に向けての練習も始まりますが、暑さ対策を始め、学習環境をもう一度見直し、安全に学習できるようにしていきます。

また、B棟北昇降口として使用していたスペースを放課後キッズクラブの部屋にする工事も始まりました。そのために、B棟の昇降口が南昇降口一つになり、1・2・4・6年生が同じ昇降口を使うことになりました。朝の登校時や下校時間が重なる日などは、約500人の児童が集まるのでかなり混雑してしまいます。譲り合ったり声をかけ合ったりしながら、上手に使ってほしいと思います。保護者や地域の方の出入りについてもご不便をおかけしますが、よろしくお祈りします。

先日、ある新聞で「小学校教員の不人気深刻 負担増で学生敬遠・・・」という記事を読みました。教職員の働き方改革は全国どの学校でも早急に対応しなければならない課題です。実際、本校でも勤務時間が毎日12時間を超えている教員、授業や評価の資料作りのために休日出勤する教員などが多数います。好ましい状況ではありません。教員が心身ともに健康でなければ、よい教育を生むことはできないと考えるからです。「教師こそ最大の教育環境である」という言葉もあります。すでにそうした状況を緩和すべく、市教育委員会主導で、放課後や休日の留守番電話設定、長期休業中の閉庁期間の実施などを導入しています。「教員が『教える』に集中できる環境をどう整えていくか」は、来年度実施となる新学習指導要領に基づく教育活動での大きな課題となります。「質の高い教育を生むこと」と「教職員の働き方改革」はセットで考える必要があると考えます。本校の子どもたちの健全育成に教職員が遺憾なく力を発揮できるように、学校としてできる環境づくりをさらに考えていきたいと思っています。その環境づくりの推進には、保護者や地域の皆様のご理解・ご支援が欠かせません。新たな環境づくりの方策については、その都度、学校だより等でお伝えしていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、皆様からもアイデアを募集いたします。ぜひお声を聞かせてください。



9月の取組目標

生活目標	規則正しい生活をしよう
保健目標	規則正しい生活をしよう
清掃目標	校舎のまわりをきれいにしよう
給食目標	協力して楽しい食事の場をつくろう